

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100909		
法人名	株式会社　かいごのみらい		
事業所名	グループホームおやまの郷		
所在地	熊本県熊本市東区小山5-1-82		
自己評価作成日	令和7年3月1日	評価結果市町村受理日	令和7年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和7年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域資源を活用した買い物支援の継続や地域住民との交流(校区サロン参加・運営推進会議の参加)また近隣中学校や高校のインターンシップ受け入れ、保育園との交流会、専門学校の実習受け入れにて外部と接触の機会を積極的に作っている。また地区の老人会や地域行事にも回覧板や直接お声掛けいただき参加させていただいている。来季よりご利用者3名校区の老人会へ加入が決まりより地域との交流の場が増えてきている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して15年、利用者の入れ替わりはあるものの、一人ひとりへの関わりを大切にしながら日常が利用者との関係性を深め、共に生活するものとして良好な関係が築かれ、“笑って過ごす環境”に繋がっている。自立度や介護の違い等2極化にあるが、老人クラブへ加入した利用者や知人との外出、新聞を読んだり、超高齢化してもエアロバイクでの体力維持に励む利用者等、いつでもどんな時でも“自分らしく”生きる事を支援し、コロナ禍以降途絶えていた地域との交流に取り組み、地域のサロンやどんどこや等への参加やインターンシップ等も受け入れている。住環境・声かけの仕方・ポータブルトイレの配置等を検討し、利用者の職員への気遣いの声には裏にある思いを察知し、行動や言葉の変化も見逃さない等全職員が高い意識を持ってケアに当たるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一施設であり地域の一部として地域行事の参加や関係性の構築には日々努め自治会長や民生委員との関わりを濃く行えるよう努めている。	共に歩む「ご縁」を大切に安心して家族的な空間作りや一人ひとりの“らしい”生活や想い、更に利用者、家族、地域及び職員の「和」を大切にすることを理念として掲げ、職員のケア規範としている。開設して15年の経年により利用者の入れ替りがある中で、いつでもどんな時でも“自分らしく”生きる事を全職員が共通意識を持ち、利用者・家族の意向をケアプラン作成や日常生活の中に生かすとともに、地域に密着した運営に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	校区サロンの参加も利用者だけでなく職員もできるだけ参加し地域の方々と交流の場として認識している	地域活動に積極的に参加した1年であり、月2回のにこにこ会（地域のサロン）への参加や、回覧板でリサーチし、会場まで歩いて行ったどんどこや、3月の老人クラブの加入を次のステップとして地域の人との交流やホームでの生活を発信する場としていく意向である。園児との交流、中・高生の職場体験やリハビリテーション専門学校のインターンシップ等も受け入れている。	外に向かった活動は充実してる。コロナ禍以前には行われていたホーム近くのリハビリテーション専門学校との交流等ができればとの考えもあり、外に出ることが難しい利用者への支援として、ホームでの交流等に期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	担当薬局に依頼し運営推進会議での認知症のお薬についての勉強会など開催し、その効能など一緒に学びながらその中でも関わりが一番大事であることを伝えながら事業所の取り組みを発信している			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや事業所内での事案・ヒヤリハット・事故報告などはお伝えして意見など確認しているが、アンケート調査などは行っていない。	自治会長・社会福祉協議会会長・老人クラブ・民生委員・協力医療機関の地域連携室、利用者の他薬局、地域包括支援センター等をメンバーとして開催。ホーム内を見学や日常生活の確認してもらい、ホームからの報告のもと意見交換を行っている。利用者の声も直接聞いて貰う事で認知症ケアの推進に生かし、担当薬局からの勉強会等も組み入れている。感染症発生時には案内状に意見や要望欄を設け、資料の持ち届け時に収集する体制としている。	平日の午前中の開催であり、家族の参加は難しいとして玄関に議事録を設置している。家族に目を通してもらうよう声掛けをされることで参加意欲に繋がるとこと期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターには年度での必須研修会項目など法人にて依頼し、運営推進会議にも毎回参加していただいている。	法人の市内である3グループホーム合同の研修会に地域包括支援センター職員が講師として関わってもらい(身体拘束や虐待等)、BCP作成に市の現状を把握して作成している。市の集団指導等の情報を得ながら研修に参加し、運営推進会議には地域包括支援センターからの参加を得ており、ホームの現状を発信している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については入社時や委員会などでも必ず当事業所内での起こりうることなど事例にし職員全員で身体拘束ゼロ運動として取り組んでいる	玄関に「拘束排除宣言」を掲げたホームでは、拘束はしないことを前提に利用者に関わり、ストレスマネジメントも行っている。身体拘束適正化等委員会を年に4回開催するとともに、ホーム内で職員の疑問点や住環境等を話し合い、声掛けの仕方・ポータブルトイレの位置や、ナースコールではユニットケアの観点から検討しベッド位置変更や必要であれば取る付けることとし、「座っててください」の職員の言葉も行動抑制として捉え、本人の意思を確認することを申し合わせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の委員会と合わせケアカンファレンスなどでも虐待にならないために介護拒否なども含め管理者も介入し現場の目線以外で気になるところは意見交換など行い留意している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度に関しては権利擁護にて勉強会実施しているも日常自立支援事業所については行っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談窓口として入所時や重要事項説明書内に変更がある際、相談窓口の案内を行い、相談や苦情内容に関しては迅速に対応行うよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情などあった際は運営推進会議にて内容・対応の報告は行っている。	利用者は運営推進会議に参加し自分の言葉で意向等を伝えられる他、職員が日々の関わりの中で聞き取りしている。家族には訪問時に状況等を説明している。週毎に食事の様子を見に訪問される家族等もある他、広報誌や毎月担当職員からのお便りによる近況を報告し家族の不安軽減に努め、家族からの申し出は苦情相談簿に残し、家族への説明と、運営推進会で報告し、全職員が共有する体制としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課は現在行えていないが、法人からの聞き取りなどは適宜行っている	管理者はケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図り、職員からの提案等を収集し、決定する事案は管理者・ケアマネジャー、主任とで話し合い、医療が必要な事案は管理者・看護職員・ケアマネジャーに上げるとしている。毎月法人全体の管理者会議ではホームの課題を第一に検討し、現状報告や職員の問題、人材確保等を話し合い、全職員が共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの要望に対しては代表者から個々に確認・提案、修正を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍以降は外部研修の機会は減っているが、法人内での合同研修（身体拘束・虐待・BCPなど）は行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での内部監査などにて情報共有など行い各事業所の強みや修正箇所を明確にしサービス向上につないでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成を中心に聞き取りや普段の生活で困っていることはないか探り一人一人に合わせたサービス内容を反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会議や面会時に職員からの近況報告行い面会来訪時必ず管理者出勤時は報告し何かあれば声をかけてもらうよう口頭でお伝えする。不在時間問い合わせがあれば後日電話にて対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の様子の中でケアプランのサービス内容の支援が難しくなった際などご家族へ相談しプラン内容の見直しに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はあくまで生活環境の一部として周知し支援行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援の中で、家族の介入が必要であったり介入することでご利用者が不安なく支援を受けられる状況であればご家族に協力依頼などしている。現在は入浴支援など		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会でもご家族のみならず友人や元職場の同僚などご家族より面会の制限がない限り行っている	面会の制限も無く家族や知人の訪問や、家族の了解を得て知人とスーパーへの外出や家族により元の住まいへの外出、法要への参列、地域のサロンへの参加等家族の協力を得て馴染みの関係が途切れない様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格やコミュニケーション能力など考え席の配置は考えており、トラブルなどあればユニット間で配置検討など行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他サービス形態移行後もご家族より、要望があれば転移先へ面会や相談等は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の情報より支援内容は作成するもご本人に都度内容確認し、意向に沿わないものは省きながらご本人の意向に合わせた内容に変更し、生活の中で要望があれば反映させている	職員は利用者の笑顔が減ってきたのではないかと日々気づきを持ってケアに当り、「すみません。ご迷惑をおかけします。」等職員への気遣いに、言葉の裏にある想いを察する等行動や言葉の変化を確認している。「髪を切りたいや買い物に出かけたい」など、したい事・行きたいこと等を把握し、家族に相談しながら、職員が実現させている。意思疎通が難しい方には、極力望まれるように本人の行動や表情で推察し、本人本位の生活になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	あくまでホームの生活は自宅の延長線上と職員が理解し、今までの生活習慣など継続可能な範囲で同じように過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの心身の状態に合わせて支援行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム内での暮らしの中から問題点を話し合い尊厳を第一に方針を決めている。また外部の医療機関や訪問リハなどからの意見も含めプランに反映させている	ケアマネジャーの変更によりアセスメントから取り直し、介護サービス計画の可否を見極め、3ヶ月毎及び短期目標6ヶ月毎に評価している。見直しにはケアマネジャーと職員で状態についての検討やサービス内容を話し合い、作成した項目について担当者会議で本人・家族との話し合いを行い、急変時対応や終末期についての意見等を聞き取りしている。退院時の見直し等現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス内容の中で適しているかどうかわからないことに関しては記録に残し計画作成担当者を中心に見直し行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に相談してからではあるがその時々訴えに関してはできる限りの支援は行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物支援や公園までの散歩など希望される際は行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時主治医に相談し家族に説明行い、医療機関の受診行っている	入居時に協力医療機関の説明を行ない、家族の希望を確認し、現在2か所の医療機関より定期的な訪問診療としている。また、専門医（精神科医）や歯科についても訪問診療を支援している。受診結果で何か変化があれば家族へ報告されている。皮膚科受診など他科受診については必要時に職員により受診対応が行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体異常や体調変化は看護師に相談し必要時受診行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	内科的なところは難しい時もあるが骨折後などのリハビリについてはホームでの生活に戻っても対応できる範囲で提案し、慣れた環境での生活にいち早く戻れるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や担当者会議などで緊急時・終末期についての以降の確認は都度行っている	入居時に意思確認書を取り交わし、必要に応じてその都度説明している。家族の医療支援が必要でなければホームでの最終での希望に、昨年12月に状態変化を家族に随時連絡し、自然な最期を支援している。その際、共に過ごされた他の入居者も家族の了承のもと最後のお見送りをされている。	職員では看取りケアの勉強会は難しいとしていたが、看護職員を採用し看取り等の研修を依頼しており、これからの支援に繋がることと期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修などで緊急時対応やマニュアルの確認等行い、定期的に勉強会として行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練に加え今年度から義務化になったBCP訓練も机上訓練として行っている。また運営推進会議でもホームを一時避難所として発信するとともに協力依頼も行っている。	年2回防災訓練を実施し、消防署の提案でマニュアルを読み込んでの机上訓練を行っている。BCPについては行政へ研修を依頼し、講習や指導を受け、災害時の参集訓練が行われている。運営推進会議の中でホームを一時避難所とすることや協力体制について依頼している。備蓄はリストに沿って確保し、安全点検としてコンセントの埃などにも意識を持って確認している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた声掛けとともになれ合いにならないよう対応している	入居者は人生の先輩であることを大前提に、堅苦しくならず、本人の尊厳を傷つけない様に気を付けている。居室への入室時のノックの徹底や呼称は苗字や下の名等家族の希望も聞きながら対応している。個人情報の使用についても家族に説明し同意書を交わし、SNSへのアップや広報紙への掲載等個別に対応している。職員へは入職時に同意書を取り交わしている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人で決定が難しいことでも選択肢を決めれる範囲まで絞ったりなどしてその中から自己決定を促すよう行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その都度ご利用者の要望に合わせて体調も考慮しながら行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる範囲で行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人に合わせ食材によっても形態を変えたりしながらできるだけ残さず食べれるよう支援している	現在は週3日、ご飯と汁物をホームで作リ、主・副菜は業者により配達されているが、4月から厨房職員の体制が整うことからホームで手づくりの食事を提供することとしている。食事形態は嚥下力に応じて常食からミキサー食まで準備し、必要な方に食事介助されている。	家族にとって日頃の献立は気になる点と思われる。今後は行事食に限らず普段の食事についても時には写真付きで紹介する事で安心に繋がっていただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできる方は自力で行えるよう声掛けし、一部介助で行える方はその人にあった支援を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄が行えるようスタッフ2名介助など含め支援している	可能な限りトイレでの排泄を職員体制を整え支援している。又自立された方もおられ、継続できるよう職員間の共有に努めている。排泄用品も昼・夜やパットの併用、布パンツの使用など個々に応じて検討しており、オムツ交換は居室で特にプライバシーに配慮している。また排泄用品はコストの軽減を考えて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量が少ない方は飲んでいただけるものを試しながら、ご家族に依頼など行い水分が摂取できるよう取り組んでいる。また極端に少ないご利用者に関しては水分量チェックを個別に行い意識しながら支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安心して入浴できるよう聞き取りながら女性スタッフ対応の方など振り分け、入浴中の様子を見極め改善の必要がある方についてはスタッフ間で共有し支援を行っている	週2回午前を中心に入浴支援を行っている。職員には「家に帰って入る」と入浴拒否もあるが、家族による対応がスムーズな入浴となる等家族の協力を得て支援している。湯はかけ流しで対応しており、身体状況に応じてリフト浴の使用やシャワー浴が中心の方もおられる。菖蒲や柚子を使用した季節湯を取り入れ、入浴後はお茶などで水分補給に努め、中には好みの物を持参される家族もおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間は適宜その日の体調や様子など考慮し声掛けしながら行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報等で確認しながら行っている。 また内服薬変更や追加処方があった場合は担当薬局へ相談・助言をいただいている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションと午後からの余暇時間などで活動やその方にあった作業療法や支援行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の要望があればできる範囲で行っている。遠方や自宅などの要望があればご家族と相談し家族付き添いにて行っている	本人の要望があれば可能な限り外出への対応を行っており、「毎日散歩に行きたい」と希望をあげる方もおられるようである。地域サロンへの参加や今年のどんどこやには歩いて参加しており、どんどこやの火にあたり「あつかなあ～あつか～」といいながら楽しまれている。家族の協力による外出も多くなっており、法事への外出や以前の自宅へ帰宅された方、家族以外でも家族の同意のもと知人とのスーパーでの買い物等にも外出されている。	入居者の希望で職員と近隣のコンビニまで買い物外出など個別支援への取組も聞かれた。今後も地域や家族の協力を得ながら入居者の希望に沿った外出支援に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心感や自己決定が行えることで職員には周知し、ご家族へも認知機能の低下などで紛失などあり得ること十分にお伝えしご家族の決められた範囲で所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯電話を持ち込まれている方、ホームの電話で毎日自宅にかけられる方、外部との連絡は一切制限していない		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの居室が共用部に面している為都度配慮は行っている	玄関先は樹木の手入れが行き届き、プランターには季節の花が散歩に出る入居者や来訪者を迎えている。厨房を中心に左右に配置されたユニットの照明は居室にも影響する事から入居者に尋ねながら明るさを調整している。ホーム内は掃除や換気が徹底され、移動の妨げになるものが無いよう物品の配置にも配慮している。訪問当日も日課とされている室内ウォーキングに励まれる入居者の姿が見られた。	リビングからは庭先の樹木や芝生などが眺められ入居者は特に花の開花を楽しんでいる。デッキに置かれた備品の収納を検討することで景観も良く、更に寛げる空間になると思われる。取組に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりひとりの性格などから席の配置などベースはあるもみなさん自由に行き来できるよう声掛け行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内も入居時や持ち込み物がある際はご家族に入っていただきご本人と相談しながら決めていただいている。都度要望があればご本人と相談しご家族の協力が必要であれば依頼している。	居室への持ち込みの品は本人・家族と相談のうえ決めてもらっており、職員は相談を受けアドバイスをを行うケースもある。居室にはクロゼットを備え付け、季節外の品など整理整頓している。90歳を過ぎても毎日エアロバイクで体力トレーニングをされる方、神棚にあげるお茶や水を職員に頼む方、飾られた家族の写真にそれぞれ記名の札が付けられているなど家族の思いが伝わり、家族による衣替え等家族の協力が得られた住環境である。	入口の飾り窓は職員の担当としており、スッキリした窓が良い方へも本人の趣味や好きな物など何か職員の工夫に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人に合わせた表記や居室内・共用部の環境を整備し支援行っている		